

ピシロック® フロアブル

農林水産省登録 第23952号



日本曹達株式会社農業化学品事業部開発部

1. はじめに

ピシロックフロアブルは、日本曹達（株）が発明した新規系統（テトラゾリルオキシム系）のピカルブトラゾクスを有効成分とする新規殺菌剤で、べと病や疫病など卵菌類由来の病害に対して優れた効力を示します。本剤の作用機構は新規と推定しており既存剤の耐性菌にも有効です。

本剤は2011年からNF-171フロアブル5の試験番号で（一社）日本植物防疫協会を通じて委託試験を開始し、2017年7月に農業登録を取得し、2017年10月より販売を開始致しました。

2. 有効成分と製剤

- 有効成分：ピカルブトラゾクス5.0%
- 性状：類白色水和性粘稠懸濁液体
- 剤型：水和剤（フロアブル）
- 有効年限：4年
- 包装：500ml×20本

3. 安全性

人畜毒性：普通物

- 皮膚刺激性（製品） 刺激性なし（ウサギ）
- 皮膚感作性（製品） 感作性なし（モルモット）
- 急性経口毒性（製品） $LD_{50} > 2,000$ mg/kg（ラット♀）
- 急性経皮毒性（製品） $LD_{50} > 2,000$ mg/kg（ラット♂♀）

水産動植物への影響：

- コイ $LC_{50} : > 1,000$ mg/L（96hr）
- ミジンコ $EC_{50} : 125$ mg/L（48hr）
- 藻類 $ErC_{50} : 155$ mg/L（72hr）

有用生物に対する影響

蚕 影響なし

ミツバチ 急性接触毒性（原体）

LD_{50} （48hr） > 100 μ g原体/頭

急性経口毒性（原体）

LD_{50} （48hr） > 100 μ g原体/頭

影響が認められなかった他の有用生物・天敵：ナミテントウ、キイロタマゴバチ、クロマルハナバチ、オンシツツヤコバチ、コレマンアブラバチ、スワルスキーカブリダニ、チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ、リモニカスカブリダニ、タイリクヒメハナカメムシ、タバコカスミカメ

4. 特長

- べと病、疫病等、卵菌類由来の病害に対して高い予防効果を示し、浸達性により葉の裏側まで薬剤が浸達します。また、耐雨性にも優れています。
- 新規系統のテトラゾリルオキシム系殺菌剤で、既存殺菌剤の耐性菌に対しても有効です。作用機構は現在研究中ですが新規作用と推定しています。Fungicide Resistance Action Committee (FRAC) が殺菌剤を作用機構別に分類したFRAC CODE LISTでは唯一「U17」に分類されています。
- 収穫前日まで（はくさいは収穫3日前まで）使用できます。
- 汚れが少なく使いやすいフロアブル剤です。
- 有用生物や天敵に対して影響が少なくIPM体系に適した薬剤です。

適用病害と使用方法（2017年12月現在の登録内容）

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ピカルブトラゾクス を含む農薬の 総使用回数
だいこん	白さび病 ワッカ症	1,000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
ブロッコリー ほうれんそう	べと病				3回以内		3回以内
きゅうり メロン キャベツ レタス 非結球レタス たまねぎ							
ミニトマト							
すいか				褐色腐敗病			
はくさい	べと病			収穫3日前 まで			

5. 推奨される使用方法

- 病害の発病前～初発直後の散布が最適です。発病が進展してしまった場合は治療効果の高い薬剤を使用していただき、発病が治まった後に本剤を使用してください（図1）。
- 耐性菌発生リスクを抑えるため、連用をさけ、他系統剤とのローテーション散布を推奨致します。

6. おわりに

ピシロックフロアブルはべと病や疫病など、卵菌類由来の病害に優れた効果を示す新規系統の殺菌剤です。本剤の特長をご理解いただき、体系防除の1剤として使用して頂ければ幸いに存じます。最後になりましたが、本剤の開発にご協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。本剤の使用に關しまして、引き続きご指導を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

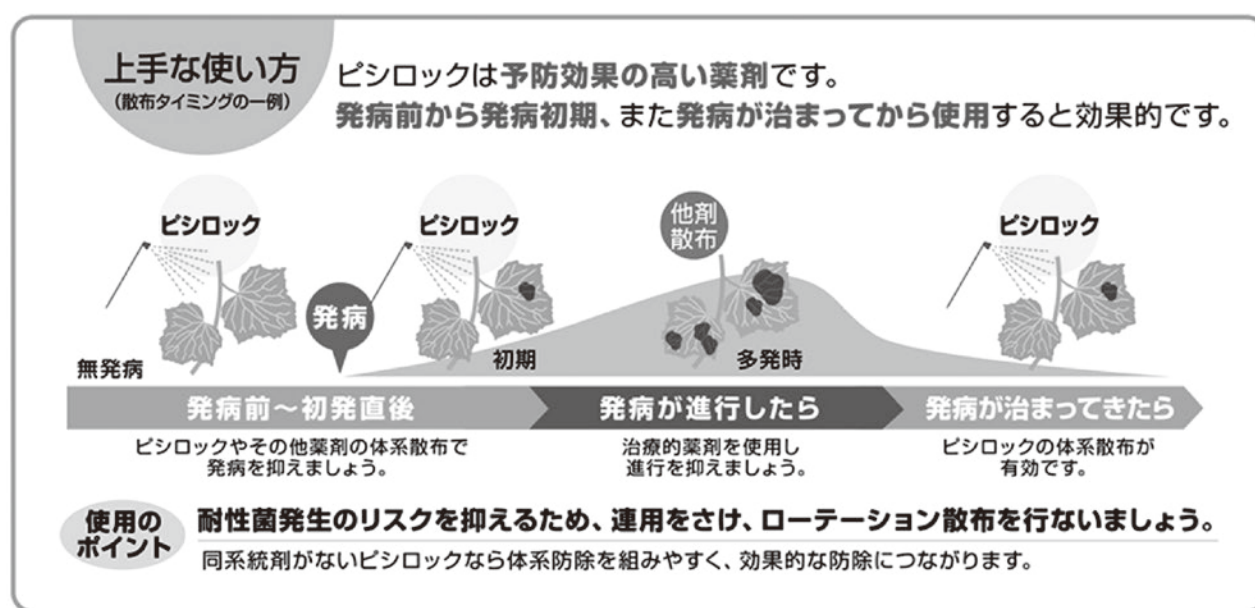


図1.ピシロックフロアブルの最適な使用時期